

戦時下の校長先生の証言 「教育村」東野



金子亀遊校長

ひがしのしょうがっこう しょうわ ねん ねん こうちよう せんそう ま さいちゆう きんむ
東野小学校には昭和19年と20年に校長として戦争の真っ最中に勤務さ
かねこきゆうこうちよう つぎ つづ
れた金子亀遊校長は次のように綴っています。

ぐんじん つぎつぎ おうしやう せいそうねん ぐんじゆこうじやう どういん ひがしのむら ろうじん
軍人は次々と応召し、青壮年は軍需工場に動員されて、東野村は老人と
じよせい こ しょくりようぞうさん
女性と子どもばかりで食糧増産や
ぐんじゆぶつし きやうしゆつ お せいかつひつじゆひん
軍需物資の供出に追われ、生活必需品は
ふそく はいきゆうひん くる
不足し、配給品もだんだん苦しくなって、

ひがしのむら ひじよう くる とき がっこう きやうしゆつ ひ まる がく
東野村も非常に苦しい時でした。学校では教室に日の丸の額や
いちおくいっしんじんちゆうほうこく う と ひやうご かか
「一億一心尽忠報国」「撃ちてし止まん」などの標語を掲げて
こうこくみん れんせい じゆうてん お こくさく した しょくりようぞうさん
皇国民の錬成に重点を置き、国策に従って食糧増産や

ぐんじゆぶつし きやうしゆつ つと した うんどうじやう ほ おこ
軍需物資の供出に勤め、下の運動場も掘り起こして、さつまいもや大豆を作り、白坂の荒れ地を



昭和19年度卒業写真(中央右が金子亀遊校長) ~撮影:昭和20年3月~

だいず つく しらさか あ ち
開墾したり道端を起こして大豆を
かいこん みちばた お だいず
蒔いたりしました。田植えや稲刈
ま たう いねか
りの時は農繁休業として家の
とき のうはんきゆうぎやう いえ
手伝いをさせたり従軍人の家に
てつだ じゆうぐんじん いえ
勤労奉仕に出かけさせました。
きんろうほうし で
なつやす こうとうか せいと つ
夏休みには高等科の生徒を連れ
そうちやう はなしやま のほ ふと
て早朝から花無山へ登り、太い
まつ みき きず まつやに あつ
松の幹に傷をつけて松脂を集め
さぎやう わりき はこ い
る作業や割木を運びにも行きま

しょうわ ねん なつ ばくげきき ほんどくうしゆう はじ こ まいにち ぼうくうずきん かた
した。昭和19年の夏からB29爆撃機の本土空襲が始まり、子どもたちは毎日防空頭巾を肩にかけ
とうこう
て登校しました。

がつ とし きけん なごやしりつ みつるぎ しょうがっこう じどうやく めい ひがしのしょうがっこう いたく
10月には都市が危険になり名古屋市立御劔小学校の児童約80名が東野小学校に委託され、
そうきゆうじ しゆくはく まいにち だんたいこうどう いっしょ こ いっしょ な ご や こうしゆう なが
宗久寺に宿泊して毎日団体行動を一緒にしました。子どもたちと一緒に名古屋の空襲を眺めて、
ついらく ひこうき み ばんざい さけ ま か そま な ご や み しんばい きおく のこ
墜落する飛行機を見て万歳を叫んだことや真っ赤に染まった名古屋を見て心配をした記憶が残っ
ています。



昭和23年度卒業写真

しょうわ ねん きび あつ
昭和20年8月15日はとても厳しい暑さでし
た。ラジオから流れる終戦の大 詔 を聞いて全身
ちから いっき うしな ぼうぜん
の力を一気に失って忙然としました。

ひっしょう しん しどう こ なん
必勝を信じて指導してきた子どもたちに何と
い わ こんご きょういく
言って詫びるのか、今後の教育をどうするのか、
じつ ふくざつ くる おも しょうわ ねん がつ
実に複雑で苦しい思いでした。昭和20年1月、そ



昭和24年度卒業写真

ころ ひがしのむら だいがくそつぎょうせい おお ぐんない
の頃の東野村は大学卒業生の多いことは郡内(げんざい えなしな い だいいち きょういく ねっしん
現在の恵那市内)第一位で、教育に熱心な「
きょういくむら い しょうがっこう そつぎょうせい
教育村」と言われていました。小学校の卒業生も
だいぶぶん こくみん わり い ちゅうとうがっこう
大部分が国民の2割しか行けなかった中等学校へ
しんがく きぼう たし きょういくむら きんむ
進学を希望していたので、確かに「教育村」を勤務

じっかん がっこう
していて実感しました。したがって学校では「
じどう のうりよく たか もっと かんよう
児童の能力を高める」ことが最も肝要でした。

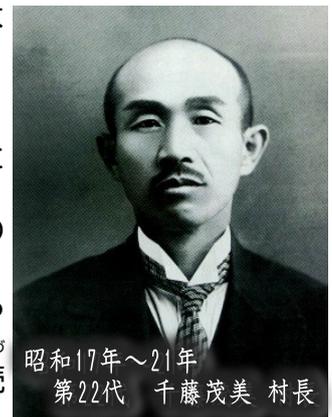


昭和26年度卒業写真

がくりよく ねんげつ よう さい
学力をつけるには年月を要します。その際、
しょうがっこう ようちえん へいせつ まん さいじ きょういく
小学校に幼稚園を併設して満5歳児から教育を
はじ かんが せんじほいくえん かいせつ
始めたいと考えました。そこで戦時保育園を開設
きょういく すす しょうわ
して教育を進めることをしました。これが昭和20
ねん がつ にち
年4月1日のことでした。

ほぼ げんざい ほういくし ようちえんきょうゆ めい にんめい ひがしのむら さいじ ひとりのこ にゅうえん
保母(現在の保育士・幼稚園教諭)は2名を任命して東野村の5歳児は一人残らず入園しまし
た。戦時中できぎ1本、ガラス1枚も自由に買えないときに、校舎の一部を改造して幼児教育に
ちから い ひがしのむら とき せんだう しげよしそんちやう ねつい
力を入れたことは、東野村、そして、その時の千藤茂美村長の熱意によるものでした。

しょうわ ねん ひがしのちゅうがっこうとうごうもんだい お ちい どりつこう
昭和23年には東野中学校統合問題が起きましたが、小さな独立校と
みち そんみん えら ひがしのむら とくべつけいひ けいじやう いたく
しての道を村民は選びました。東野村から特別経費を計上して委託の
せんせい たの ひがしのちゅうがっこう しょうわ ねん がつ えなひがしちゅうがっこう とうごう
先生を頼んで東野中学校を昭和31年4月の恵那東中学校と統合になる
ひがしのちゅうがっこう きょういく こう きょういくむら は いとな つづ
まで東野中学校は教育のモデル校として教育村に恥じない営みを続
けました。



昭和17年～21年
第22代 千藤茂美 村長